おたる西別院だより

お　盆　号

小樽別院盆踊り（別院境内）

お盆参詣	8月7日(火)より12日(日)の間でお盆参りに伺います。 (あらかじめハガキにて、期日をお知らせいたします。)
納骨堂の読経	8月13日(月)より16日(木)の間、朝8時～夕方6時までにお参り下さい。
月忌参詣休止	8月7日(火)より、17日(金)まで、月忌参詣をお休みさせていただきます。

盂蘭盆会におもう

輪番　片山晃英

今年もお盆の季節が巡ってまいり、国民の大移動が始まりました。

単身赴任の人や、実家を遠く離れて働く家庭を持った人々が家族と共に、抱えきれないばかりのお土産を持って生まれ故郷の我が家へ帰っていきます。

お盆について「仏説盂蘭盆経」があります。

それによりますと、浄土真宗のよりどころとする「浄土三部経」に登場するお釈迦様の十大弟子の一人目連（目犍連ともいう）尊者の母親が餓鬼道におちて倒懸「とうけん」（さかさまにつるされていること）で、インドの古語でウランバナといい、この音訳が盂蘭盆となる）の苦痛を受けているのを知って、目連は嘆き悲しみ、お釈迦様に相談して法要を行い、多くの人々に布施をしたと伝えられています。

なおここで目連の母親が餓鬼道におちたということは、世間の親は、自分の子供のために、我が身の苦痛もいとわず、すべてをなげうって我が子のみに尽くすのが一般的であります。私達は親のご恩に感謝せずにはおられません。

仏教的意味づけに由来するお盆が近年では働く人たちにとっての夏期休暇となっています。郷里に帰省する人も多いのがこの時期の特徴です。

ある駅のプラットホームで家族づれの人に、テレビのインタビューで、「どちらへお出かけですか？」の問いに若い父親の一人は「久ぶりに兄弟姉妹が顔をそろえますので、お墓まいりとお仏壇へのおまいりです」と答えます。

お盆には、平素仏縁のない人でも、お墓に参ったり、お寺に参ったり、お家の仏壇に参る習慣がいきています。これは今は亡き人への思慕が、仏縁を通して深められているのですから尊い習慣であります。やはり近親者の死が最も鮮やかにそれぞれの人の心によみがえってくるようです。親には苦労のかけっぱなしであったこと、年寄りに対して思いやりの心がなかったことなどが、思い出されてきて、手を合わすのもお盆でありましょう。

郷里に帰り親子・兄弟・姉妹が集まりそろってほとけさまにお参りをする機会に恵まれるのです。それが年に一度や二度ではなかなか身につくことではありませんので、それぞれのご家庭にご本尊をお迎えしたいものです。一家の中心には阿弥陀如来様がいてくださる、と仰いで生活できる家庭にいたしましょう。

合掌

3分間の心のともしび

TEL 27-1616

小樽別院テレホン法話

24時間
いつでもどうぞ

盂蘭盆会

●日　時●

8月15日(水)・16日(木)

午後1時30分

●場　所●

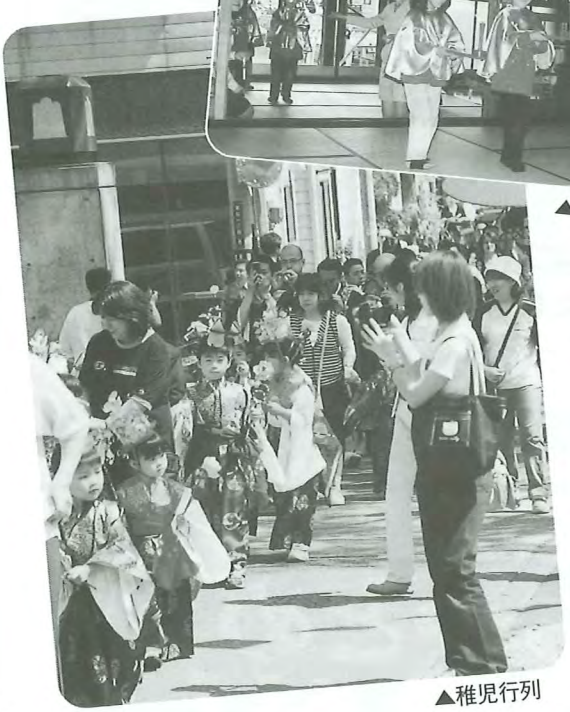
小樽別院本堂

別院フォトクラブ 降誕会編

▲初参式

▲三園合同参拝

▲お斎も大盛況!!



▲稚児行列

▲双葉高校参拝

次回もお楽しみに。

おかげさまで創業226年　京都店開店106年

感謝の礼拝　平和な家庭

京仏具 小堀

札幌店／〒064-0807 札幌市中央区南7条西8丁目1番19号
☎(011)512-5171(代)FAX(011)512-5183
本　店／〒600-8175 京都市下京区烏丸通正面上る
☎(011)512-5171(代)FAX(011)512-5183
東京店・練馬店・福岡店・小堀京仏具工房・滋賀工場
インターネットホームページ　http://www.kobori.co.jp

葬　儀

株式会社 博禮社

〒047-0024 小樽市花園3−25−15
電話（代表）23 − 0246番
■24時間営業■

ご案内

お晨朝
毎日　午前6時30分

常例布教
毎月7日～11日　午後1時30分
13日～16日　午後1時30分

仏教青年会
毎月1回　午後7時30分

仏教婦人会
毎月15日　正午（おときあり）

仏教壮年会
毎月6日　午後7時

おつとめしま専科!
毎月2回（火曜日）　午後2時

ボーイスカウト
毎月1回（土曜日）　午後2時

日曜仏教講座
毎月1回（第3日曜日）
午前9時30分

十九日講
毎月19日　正午（おときあり）

各説教所の案内

●奥沢説教所
樹心会　5日　午後7時
唯信講　10日　正午

●若竹説教所
彰心会　7日　午後7時

●緑説教所
無量講　9日　午後6時

●新光説教所
法友会　13日　午後6時

カブスカウト募集!

何でも話しあえる友達をつくろう。
活　動／毎月1回　土曜日 午後2時～4時
内　容／文化しせつの見学、お泊り会、運動会。
小学校2年生から5年生の男子、女子を
大募集!ぜひ連絡下さい。

TEL 22-0744 担当 温井、村田、猪口

仏教青年会会員大募集!

●活動内容／文化活動、ボランティア
月1回例会
各種レクリエーション（ボーリング、カラオケ、スキー等）
10代、20代の男女を待っています。
ぜひ気軽によってください。

連絡 **TEL 22-0744** 担当 温井、村田、阿部

おつとめしま専科!

伝染するよ

只今、会員さん増殖中!!

対　　象／どなたでもどうぞ。
費　　用／特に必要なし!
日　　時／月2回の火曜日午後2時
お問い合せ／今すぐ別院の**磯村・阿部**まで...

別院盆踊り

●日　時　8月4日(土)・5日(日)
午後7時～9時まで

お楽しみ抽選会有り!

●場　所　本願寺小樽別院境内

※雨天の場合は中止となります。又、午後6時以降は境内への車の乗り入れをご遠慮下さい。

お盆の迎えかた

門徒のお盆は、あっさりしているとよく言われますが、それは精霊棚や迎え火・送り火といった特別な儀式のようなものを行わないからでしょう。しかし、これが本来の仏教のおしえであって、お盆に先祖が一時帰省するという考えは、わが国固有の民族信仰にもとづいたものであることをこの際はっきりさせておかなければなりません。真宗はもとより、仏教においては、霊魂が肉体や家や特定の場所にとり着いたり離れたりするという考えはありません。故に霊を受け入れる為の精霊棚や、その道先案内の火をたく必要もないのです。ましてや、その精霊棚の代わりにお仏壇をあてるというのは言語道断です。亡き人は、お念仏の信心によって、仏の国に往生させていただいているのですから、この世をなつかしがって帰ってきたり、その日に供養しなければあの世に帰れないなどということはありません。その仏国土に私達を往生させて下さるみ仏を礼拝する場所がお仏壇なのです。

私達真宗の門徒は、科学の発達したこの現代において、先祖の霊をうやまうといった心優しい日本の古い習慣を無視する訳でなく、そのご縁によって、先祖や亡き人がよろこんでこられたお念仏を、このお盆を機会に、みなさんいっしょにあじわっていただきたいのです。私達をお育て下さった亡き人のご恩をしのび、一同そろってお念仏し、お寺の法要にお参りさせていただく、これが門徒のお盆の迎えかたではないでしょうか。

十人十声

●命をみつめる

西川　達恵

もう何年も前になりますが、十一歳の誕生日を祝ってもらった女の子の私記が新聞に載っていましたので紹介します。

「皆が協力してつくった手作り料理と、お父さんが買ってきたバースデーケーキを中心としての誕生会は、とっても嬉しかった。でも本当は、私が祝ってもらうのでなく、私を生み育ててくれた皆に、私の方からお礼をいう日が、本当の誕生会だと思った。そして、この時のおばあちゃんの発言が、とってもすばらしいと思った。それは〝わしが死んだ時も、こんな風にして祝うてくれんかのう〟と言ったのだ。すると、お父さんが〝何を馬鹿なことを言う。死は悲しみだ〟とたしなめた。おばあちゃんは〝死ぬのではない。仏に成るのだ。しかも、地獄行きの凡夫が、阿弥陀様と同じさとりをひらく仏になるんだから、こんなめでたいことがどこにあるんかいのう〟といわれた。お母さんが〝本当にそうだねえ〟と言った。お寺に参って、仏様の教えを聞いているおばあちゃんは、すばらしい人だなあ。どこまでも生きていく人だ。私もこんな生き方が出来る人間になりたいと思った。」

と書いてありました。浄土真宗は命ある全てのものが「本願を信じ念仏申さば仏になる」というみ教えです。私達がこの教えを拠り所として生きるとき、この家族のようにお互いの命の輝きを見つめあう生活がひらかれます。

●おどろきの心

武藤　三孝

仏教詩人の坂村真民さんに、次の詩があります。「病いがまた、一つの世界をひらいてくれた　桃咲く」

私がもし、仏教を学ぶことがなかったら、今日、自分が生きているのはあたりまえと思うことでしょう。朝、目がさめてもあたりまえ、手が動いても、足が動いてもあたりまえ、まして、花が見えても、鳥の声が聞こえてもあたりまえという、あまりにも味のない、よろこびのない人生を送るにちがいありません。

いつ死んでも不思議でない老少不定の生命が、今、生きている。その不思議を感じて初めて、本当に人間らしく生きられるのではないでしょうか。

私たちは、自分に不幸や不運があるとすぐ他の人や、何かのせいにして文句を言うが、坂村さんのように、不幸や不運を受けとめる心を、育てていくことが大切であります。

合　掌

●仏壇のご本尊

村上　隆昌

ある門徒の方が、仏壇を新調されましたので、入仏法要にお参りしました。以前のご本尊は絵像でしたが、ご本尊も新しくなり、本像になっていました。「新しい仏壇を入れる時、仏壇店の方が、古い絵像よりも本像がいいですよ。この方が有り難いですよ。」と言われたそうです。浄土真宗のご本尊は、阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）です。そのお姿を表わすのにご本尊として、木像・絵像・名号の三種類があります。それは全く別々なものではなく、南無阿弥陀仏のお姿なのです。親鸞聖人は名号をもってご本尊とされました。阿弥陀如来が「迷いの中に沈んでいるあらゆる者を必ず救おう」とされる願いも、はたらきも、また仏さまの全ての徳を、南無阿弥陀仏の六字の中にこめて、たもちやすく、となえやすい名号となって「まかせよ、救う」と喚びつづけ、名号を与えていて下さいます。

絵像も木像も、阿弥陀仏のお心とはたらきを、あらわしていて下さる名号のすがたとして、礼拝し仰がせていただくのです。形にとらわれることなく、すなおな心で、お仏壇に手を合わせ、毎日の生活をおくらせていただきましょう。

合　掌

●多趣味の結末

磯村　真一

私は、コーヒーが大好きだ。朝は早くから、コーヒカップ2個分くらいの大きなマグカップにインスタントを入れて飲み、昼は昼で休憩の時に同じ料のコーヒーを飲むのが日課となっている。

最近インスタントに飽きてきたので、たまにはサイフォンで本格的に作ってみようとインターネットを使って通信販売でサイフォン（コーヒーの粉をこす器具）とコーヒーミル（コーヒー豆をひく器具）を取り寄せた。特にミルは、コーヒー専門店にあるようなお洒落な形の物で部屋のインテリアにもなる。しかし購入して2ヶ月、一度も使うことなく部屋の置物になってしまった。

そういえば、数年前にカクテルにはまって、それを作るための器具を揃えたことがある。一度も使うことなく片付けてしまったが、あれはどうしただろうか…。

●仏法聞き難し

梶　純信

「縁なき衆生は度し難し」という言葉がありますが、確かにいくらご聴聞をすすめてもどうにもならない人もいます。身内が突然亡くなられたりして慌てふためき、嘆き悲しみながらも、一向に仏法を聞こうとしない人もあれば、せかっくお寺に来られても納骨堂にお参りされるだけという方もたくさんおられます。こういった方々は仏縁があるのにもったいないことであり、同時に我々の力不足を感じざるを得ません。

仏教では、「人身受け難し今すぐに受く。仏法聞き難し今すでに聞く。」と説かれています。人間に生まれることは非常に稀なことであり、仏様の教えを聞くことも非常に難しいことと示されています。

我々はすでに人間の身を授かり、聞き難い仏様の教えにすでにめぐりあっているはずです。

このご縁を大切にして、親様のおよび声に耳を傾けていきたいものです。

もうすぐお盆です。

●いのち

温井　卓生

幼い頃には、何かにつけて「お母さん、お母さん」といっていたお互いが、いつのころからか「私が、私が」となって、何かにつけて、「私がこうしてやっているのに、私がこう言っているのに、私がこう考えているのに」と、「私が」が前面に出てきます。この「私が」と「私が」がぶつかって、不穏な空気を常にかもし出しているのが、私達の生活です。蓮如上人は「仏法には無我と迎らえ候、我と思うことは、いささか、あるまじきこと也」と、ご注意くださいました。私が、今、ここに生きているのは「私が」ということで生きているのではないのです。多くの「いのち」をいただき、多くの「いのち」に支えられて、生きているのです。この自分の体ひとつ考えて

も、自分でつくった部分などひとつもないのです。では、どうして、ここにこの体があるのかというと、多くの「いのち」が、私の血となり肉となっているからです。そのことに目を開けという教えが仏法です。ですから、「私が」でなく、多くの「いのち」によってというのが、「いのち」の本当のあり方です。

●心のささえ

日野　尊行

私は最近内地の友人とEメールのやりとりをするようになりました。めんどくさがりの性分なんで、今までこちらの親しい人ともあまりメールのやりとりをしなかったのですが、内地の友人と一度メールをして、遠かったはずの内地が身近に感じれたのが、メールのやりとりをするきっかけになりました。思えば、親・友人と離れ、たった一人この北海道の地に大阪から来た訳で、なやんだり、つらいことがあった時は、相談する人もなく非常にさびしい思いをしました。それが何かこのメールのやりとりで内地の友人がそばにいるような、そんな思いがしたのです。非常に心強くなりました。蓮如上人の御文章もきっと、ああこんな風にご門徒の力強い心のささえになっていたのだなあと、いまさらながらに体験させていただくことができました。南無阿弥陀仏。

●年忌法要について

村田　法道

年忌のおつとめは、一周忌、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十五回忌、三十三回忌、五十回忌、以後五十年ごとに行うのが一般的です。二十三回忌と二十七回忌など「三」「七」のつく年忌をつとめる場合もあります。一周忌を除いてかぞえ年で計算し、たとえば十三回忌は丸十二年後。年忌の年はどういう根拠でできあがったのかは明らかではありませんが、生きておる者が故人を身近に偲び、慕う心が年忌の習慣を定着させたことだけは確かです。

ただ私たち浄土真宗の法(みのり)を聞く者にとって、年忌法要は忌き人の霊を慰め、追善供養するためのものではなく、故人を偲びつつ、静かに人生を思い、み教えを聴聞する法座なのです。そして阿弥陀様の限りない光といのちの中に、亡き人も私も抱かれていることに思いをいたし、阿弥陀様によって、必ず救われていくことを歓喜し感謝するご縁として営ませていただくことが浄土真宗の年忌法要なのです。

●イメージに固定されて

阿部　慶剛

小樽の地にまいりましてから早二ヶ月が過ぎ去ろうとしています。まだまだ初めての事が沢山ありますが、その内の一つが御門徒の方々のお宅を月忌参りさせて頂く為にも覚えなくてはならない小樽の町です。

小樽という所がこんなに坂の多い町だとは思いませんでした。学生の頃、旅行で小樽へは二度来ているのですが、その時は観光で運河の周りを少し探索しただけでした。

私達はよく知りもせずに物事を自分のイメージに固定してしまう時があります。まだ小樽市の全貌を知ったわけではありませんが、観光で来た時の「北海道は広いから小樽も山坂などあまり無いだろう」というイメージは変わりました。

何事に対しても、固定されたイメージを捨て、そのものを多面よりゆっくりと見つめていける余裕が欲しいものです。

●今日の運勢

猪口　大悟

私は朝にテレビの情報番組を見ることが多いのですが、そこには必ずといってよいほど天気予報などの他に『誕生日の星座別の今日の運勢』という、何やらよくわからないコーナーがやっております。

これらのコーナーでは共通して、星座別の運勢がランキングされていて、一番好い運勢の星座、一番悪い運勢の星座などをピックアップしてラッキーカラーや、行動のアドバイスなどを呈示しております。

私が思うに、占いというものの悪い点は、たとえ占いを信じない人であっても、それを聞くことによって、その人に少なからず心理的な影響を与える可能性があるということであります。

しかし私たちは、お釈迦様より縁起の教えを聞き伝えられている身であります。縁起の道理を深くわきまえ、占いに影響されない強い心を持ちつづけていきたいものです。

●眼精疲労

相馬　早苗

ある本のデータによると、年々、日本人の目は悪くなっており、なんと日本人の五十二%の人がメガネを必要としているそうです。その原因は、欠くことのできないテレビや、OA機器の普及によるものとされています。そこで今回は、目について調べました。

眼精疲労に効果的な栄養素は、暗い所での目の働きをよくするというビタミンA、目の機能を活性化するビタミンB2、これは、白内障の予防にもなります。そして目の充血をとるのがビタミンCです。これらを多く含む食べ物は、レバーや卵、魚になります。

もちろん食べ物だけではなく、日常から目に負担を与えない事が一番ですが、目に疲労を感じた時は、遠くの物や緑を見て目をリラックスさせ、目にも休息を与える事が大切です。

日々忙しい毎日ですが、時には夜景や星を見て目も心もリフレッシュさせるのも、大切ではないでしょうか。

●『ことば』

渡部　恵

いつもお会いすると必ず『元気かい？』と声をかけてくれるご門徒さんがおります。普段よく聞く言葉であり、よく使う言葉でもありますが、とても嬉しく思います。

ある本に、こんな詩が書いてありました。「言葉というものは　傷つけもするし　幸せにもする　単純な文法です」一言の簡単な言葉でも、気持ちがあるのと、ないのでは、伝わり方も違い、何気なく話したこともその人を傷つけてしまう事があります。私自身もそういう経験がありました。言葉というのは、とても素晴らしく、とても難しいと、思います。

素直に思ったことを伝えられることが何より大事なことなのでは、と思いました。

2001年(平成13年) 年回表

1周忌	平成12年
3回忌	平成11年
7回忌	平成7年
13回忌	平成1年
17回忌	昭和60年
25回忌	昭和52年
33回忌	昭和44年
50回忌	昭和27年

こんにちは！若竹保育所です

4月1日の入所式を終え、6月現在、1歳～6歳まで52名の子供達は、"みほとけさま"と一緒に毎日、元気に過ごしております。
小さなお手々を合わせての"花まつり""降誕会"も済み、又、楽しみにしていた春の遠足（マイカル臨海公園）では、すばらしい天候に恵まれ、子供達も往復の道のりをたいへんよくがんばって歩きました。
今は、運動会（7月1日）に向けての練習にみんな頑張っております。

春の遠足

誕生会

たのしい行事がいっぱいあります。
花まつり・降誕会・報恩講・運動会・水遊び・親子遠足・
誕生会・お遊戯会・おもちつき・かるた大会等

宗教法人 本願寺小樽別院
若竹保育所
小樽市若竹町5番2号
☎0134-22-6539

満1歳児から就学前までの幼児をお預かりしております。
保育時間は、
午前8時～午後5時30分です。
（但し、保護者の事情によっては午前7時30分～午後6時迄と致します。）

季刊 第五十七号 発行者 本願寺小樽別院 発行人 片山 晃英